

# ランキュラス・ラックスシリーズに適した栽植密度

ランキュラス・ラックスシリーズは、条間40cm×株間40cmの千鳥2条植えが最も適しています

## 背景・目的

- 宮崎県では、冬期温暖多照の気象条件や標高差などの地域特性を活かし、西臼杵地区などの中山間地を中心にランキュラスの生産が盛んに行われ、市場からも高い評価を受けています。
- 「ラックス アリアドネ」(写真1)は、分枝性が強く、生育も強健で、一般的なランキュラスよりも株が大柄に成長するため、通常のランキュラスの栽植密度では、適さないことが考えられます。
- そこで、今回、ラックスシリーズに適した栽植密度について検討しました。

## 成果の内容

- 栽植密度が低いと、平均開花日が早くなり、開花も揃います(表1)。
- 栽植密度が低いほど株当たりの切り花本数は多く、切り花形質も全ての項目で優れます(表1、2)。
- 882㎡あたりの販売額から球根代金を差し引いた収益性は、条間40cm×株間40cm千鳥2条植えが最も高いです(表略)。

表1 栽植密度の違いが一番花の平均開花日、到花日数および切り花本数に及ぼす影響

栽植密度	平均開花日 (月、日)	定植後 到花日数 (日)	切り花本数 (本/株)
40×20cm2条植え	2月11日	119 ± 23.8 a <sup>y</sup>	9.9 ± 2.2 <sup>z</sup> a
40×40cm千鳥2条植え	2月1日	109 ± 15.5 a	17.3 ± 3.8 b
株間20cm1条植え	2月2日	110 ± 14.8 a	12.9 ± 0.8 ab

<sup>z</sup> 平均値±標準偏差

<sup>y</sup> 異なるアルファベット間にはTukeyの検定において5%水準で有意差あり

表2 栽植密度の違いが切り花形質に及ぼす影響

栽植密度	切り花長 (cm)	茎長 (cm)	切り花重 (g)	茎径 (mm)	側枝数 (本)
40×20cm2条植え	64.7 ± 1.4 <sup>z</sup> a <sup>y</sup>	62.8 ± 1.3 a	43.2 ± 4.8 a	6.2 ± 0.4 a	3.7 ± 0.1 a
40×40cm千鳥2条植え	64.1 ± 1.8 a	62.2 ± 1.7 a	46.1 ± 5.0 a	6.5 ± 0.3 a	3.7 ± 0.0 a
株間20cm1条植え	72.9 ± 2.8 a	70.9 ± 2.8 a	51.8 ± 4.8 a	6.5 ± 0.2 a	3.9 ± 0.0 a

<sup>z</sup> 平均値±標準誤差 (n=3)

<sup>y</sup> 異なるアルファベット間にはTukeyの検定において5%水準で有意差あり



写真1 「ラックス アリアドネ」の切り花

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- ラックスシリーズの最適な栽植密度での栽培を行うことで、1番花の平均開花日が早まり、切り花品質の優れた切り花を効率よく生産することができ、収益性も向上します。
- 普及対象地域・面積 県内沿岸地域 20a

## 留意点

- 総合農試(宮崎市)での試験結果であり、県内沿岸地域が最も適応します。
- 品種によって株の広がりや伸長性が異なるため、品種に応じて導入の是非を判断してください。
- 「ラックス アリアドネ」を用い、4月10日まで調査した結果です。